

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年3月20日

第 406 号

### めざせ「介護芸人」？

理事長 稲松義人

新年度を迎えようとしている。小羊学園では、今年も4月1日に新入職員の辞令交付式が計画されている。しかし、施設によっては欠員があるまま新年度を迎えるところもあり、人手不足は慢性的な状況と言える。数年前は、つばさ静岡の看護師の確保に苦労していたが、最近、支援員や保育士などもなかなか応募者が集まらない。周辺の社会福祉施設等でも、求人にも苦労しているのは同様で、これは小羊学園だけの問題ではなさそうである。

大学や専門学校を卒業する人たちにとつては職場を選べる環境にあるということかも知れないが、もう一歩手前から見てみると、介護や福祉の仕事が大変だと思ふのか、養成校からは介護科の学生の募集に苦労しているという話が聞こえてくる。福祉分野では保育とか子ども支援の学科の学生募集は比較的いいが、介護学科はあまり人気がないのだそうだ。

保育士や幼稚園教諭を志す学生に、どうして保育者になりたいと思ったのかと聞くと、自分が幼児期に出会った保育士さん、幼稚園の先生にあこがれを感じていた人は少なくない。保育者は、子

どもたちが短い人生経験の中で実際に会える職業人といえる。素直な気持ちで「わたしもなりたい」という印象を心に刻む子がいるだろう。しかし看護師さんにあこがれる子どもがいるように、介護を志す人の中には、身内に介護が必要な祖父母などがいて、そこで介護の仕事に触れたことがきっかけになり、介護を学ぼうと思ったという人も決して少なくない。

人が、職業を選ぶときの動機は、収入、休日、福利厚生など、いわゆる労働条件も大切な要素であるには違いないが、その仕事に意義を見出せるか、楽しくやれるか、誇りが感じられるかなど、一言でいうと、やりがいを感じられるかどうかということが大切なのではないだろうか。言い換えると、自分が役に立っているか、人に幸せを伝えられるということも大切な視点である。子どもたちが、プロスポーツ選手やアイドルになりたいと思うのも、それらの人たちが人々に夢を与える存在だからだと思ふ。そしてそれは、「福祉」や「介護」の仕事のやりがい、人々に幸せを届けたい、笑顔で暮らしてほしいということと同じではあるまいか。

私たちが、毎日の勤務の中で決められた役割を果たしていたとしても、支援の対象の人が、穏やかな表情や楽しそうな表情、意欲的な生活態度を見せてくれないとすれば、私たちは自分たちの支

援にどこか足りないところがあるのではないかと思わされる。

最近テレビをみていると、どんな人にも「お笑い」のセンスが求められているような気がするが、いわゆる芸人さんたちは特に、人に笑いを届けるために真剣に自らの「芸」に磨きをかける。もちろん昔ながらの演芸として「名人芸」を見せてくれる人たちもいるが、多く「芸人」たちは、様々な場面で、空気を読み、軽妙な語りやパフォーマンスでその場を盛り上げる。それらの人たちのパフォーマンスの中には、ときどき笑えないものもあり、逆に見ていて不愉快になるものもある。しかし、どのような局面にあっても、そこにいる一人ひとりを見事に「イジリ」、その場の空気を和ませ、笑いに変えていくスキルをもつ人もいる。彼らは笑いに食欲に向き合う笑いのプロなのだろう。

さて、私たちの介護や支援は、「利用者さん」の笑顔を引き出しているだろうか。その場にいる人たち、みんなを穏やかな気持ちにさせているだろうか。今一度、謙虚に反省してみなければならぬような気がする。

ひよつとすると、「笑い」を引き出すパフォーマンスができていれば、それに触れた若い人たちのなかに、福祉や介護の仕事にあこがれをもつてくれる人がでてくるのではないだろうか。

2016年度  
小羊学園研究発表会  
優秀賞受賞研究

『放課後等デイサービスの  
支援員にできることとは・・・』

～ご家庭を支えつつ、

お子様の成長を見守る～

第2ドルチェ 松本 広恵

第2ドルチェ（以下ドルチェ）は、浜松中心部に近い南区参野町にあり3年前に開設されました。『ドルチェ』の意味は音楽用語で『やさしく』『柔らかかに』という意味です。そして、障がいのある学齢児の放課後、長期休暇時の支援を行っています。



1. 事例に挙げた理由

Bさんがドルチェに通所する経緯としては、相談事業所の相談員さんより『保護者様を支えるために利用を検討して欲しい』と依頼されたことがきっかけです。ドルチェでは、支援が必要な家庭にできるだけサービスを提供したいと考えていますが、利用前の面談で、お母様と実際お会いしてすぐにその必要性を強く感じました。しかし、お母様がお仕事をなされていないこと、比較的他のご家族の援助を受けやすい家庭環境であったことから、ドルチェとしては当初、毎日の利用を提示することをしませんでした。木曜日は3時下校。スクーibusにて帰宅しても4時近くになることから在宅時間も少なく、自宅でお母様と過ごす時間も大切にしたいという思いがありました。そのため当初は、月・火・水・金の週4日のサービスを提供することとしました。勿論、保護者様、相談員さんの希望など皆さんの了解を得て利用の決定を行いました。そして小学部1年生入学と同時に、Bさんの通所が始まりました。今年度で2年目となりますが、この2年間で様々な課題や問題が出てきました。

今回なぜ、Bさん及び家族のことを事例としてとりあげさせてもらったかという点、後ほど報告しますが家庭での「子どもの特性と関わり方に悩んでいる

保護者とBさんとの関わりを何とかしたい。」と思ったからです。関わり状況としては、保護者様は、子どもがかわいく愛情はあるのに気持ちにゆとりがないとBさんと上手く関われないことがあります。Bさんが問題行動を起こした際、どうしてそのような行動をとるのか理解ができず、つい冷たい態度をとってしまうこともあるようでした。行過ぎれば、家族全員の関係性が悪くなってしまっているのではないかと感じる状況等もみられていました。

2. Bさんのプロフィール

コミュニケーションは片言の単語が三つのみ。発語と言葉の意味が伴っていない状態です。また、精神面が不安定な時には意図的に失禁をする、口の中を噛む、傷を掻き出血させる、何でも口に入れる、物を投げるなどの行為が見られます。保護者様の立場になれば、言葉がなく、コミュニケーションがうまく図れないので、どのように関わってよいのかわからず大変という理由もよくわかります。そして、一番気になる点としては、日常一番身近にいるのに「ママ」という言葉が聞けなかったということでした。

お母様は、お子さんのこと、ご家族のこと、関わりが上手くいかず悩んでいることなどを、時には涙を流しながらドルチェにお話して下さいました。お父

様もお母様もBさんに愛情があり、一生懸命育てなくてはと強く思っているのです。何とかしたいという思いが強いので、Bさんの意味のわからない行動に対して逆にイライラしてしまうようでした。

※お母様からの訴え

- ① 子どもが何をしたいか、言いたいのか理解できない。
- ② 一人で他の子どもと二人の面倒をみるが大変。

提案として

- ① 学校と連携しながら意味のあるサインや言葉を増やしましょう。
- ② 辛い時にはドルチェの利用日を増やして気持ちの負担を軽減しましょう。

3. 取り組みのねらい(仮説)

お母様からの訴えをヒントに、相互理解のツールとしてサインと絵カードを使用した取り組みを行うことにしました。Bさんが始まりの会で使用している絵カードを指で示し、次の活動をアピールすることがありました。また絵の内容はしっかり理解できることと、内容に応じてスムーズに行動つなげることができていました。これらのことを活かしながら親子の相互理解を進めることができるとは仮説をたて、次のような取り組みのねらいとしました。

・Bさんが伝える、伝わった喜びを体験し、それを保護者も一緒に共感することで相互理解が深まるのではないかと保護者が本児の想いに気付き気持ちに寄り添うことで保護者自身も感情をコントロールできるようなるのではないかと

以上を期待して次の実践に取り組みました。

### ☆絵カードの使用例



まず、ドルチェで使用しているものの中から家庭でも使用できる生活場面カードを作りお渡ししました。

カードを使用し始めて暫くしてから保護者様より、日付カードも欲しいという要望がありお渡ししました。家庭用

カレンダーとカードを使用しながら、お天気や週末のお出かけ(楽しみ)を伝えながらコミュニケーションと見通しを図っているとのことでした。

### ☆サインの使用例

本児にとって最大の楽しみである食事の時間を積極的に活用し効果的な取り組みにつなげました。食事の挨拶や準備などでサインを試用し取り組みました。学校の先生にもご協力いただき、本人の手指の動きを考えて共通のサインを取り入れるようにしました。ありがとうございます。おねがいは比較的早く習得しました。勿論サインが増えたらご家庭にも報告をしながら学校、家庭、事業所で共通使用を行いました。

言葉に関しては、本児の好きな食べ物の絵本、写真を使用し物と名前が一致するようにしていききました。

### 4. 取り組みの効果、結果

・放課後2〜3時間の中ではサインや言葉の表出は期待できなかつたと思われませんが、学校、家庭、事業所と連携することで、本児からのサイン、言葉の発信が見られるようになりました。

・本児が発声をしながらサインを使う度にお母様が「○○だね。」と声かけする姿が頻繁に見られるようになりました。

した。そして、数少ない言葉に「ママ」が加わり、「ママ」と言い甘え寄り添う場面が増加したことは、この取り組みの最大の効果でした。

### 5. 考察と課題

これまでのBさん及びご家族との関わりや面談などを通し、当初のアセスメントだけでは得られない複雑な親の思いや家族背景があることが理解できました。また述べてきたように保護者様にとって子どもの特性や関わり方を理解することも当初は大変困難なことでした。こうした親の思い、家族背景、子どもの特性や関わり方等などの課題が入り混じる中で、親子ともにつらい状況があったのだと思います。

現在、このご家庭には家族含め、多くの機関や事業所などが支援者として関わっています。しかし、身近な家族だからこそ相談できないこともあるように思います。また行政関係や学校等は敷居が高い様子もあります。日常、関わりのあるところでもドルチェが、一番気軽に相談ができるとお話されていました。今後、関わる機関がより連携をしながら支援を行っていく必要性を感じていますが、キーパーソンとなり得る場所が放課後支援の事業所になっていることは、長い目で見た支援においては、課題かなと感じています。

現状の中でも色々なことが日々起こっています。その中で、実際、問題が発生したときに何処を頼りSOSを出しているのがよいのでしょうか？また、実際SOSを発信されたときにどうするべきなのでしょう？今、直ぐにでも課題を共有して役割を明確にしなければならぬ状況もでてくるように思います。

### 終わりに

現在、さまざまな放課後等デイサービス事業所が増えてきている中で私たちは、次のようなことを大切にしながら支援をしていきたいと考えています。

- ・それぞれの子ども、家庭により適切な支援を心がけたいと思います。
- ・子どもの成長を通して、保護者、支援員も成長させてもらっていることを自覚しながら支援をしていきたいと思っています。

子どもたちにとって学校でもない、家庭でもない放課後のわくわく、どきどき、時にリラックステキな時間と居場所を提供できるようにしたいと思います。そして、何よりも『支援者が楽しくなければ子どもたちも楽しい時間を過ごせない』そんな基本的な思いを大切にしながら、いつの日か「あの時は大変だったね。でもこの子に出会えてよかった」と語り合える日がくるように、今後も保護者様と一諸に、お子様の成長を見守っていききたいと思います。

### ひだまり 移転改築 完成

細江町テクランドで地域生活をしてきたグループホーム「ひだまり」が建物老朽化に伴い、三方原町にある温心寮に隣接した形で移転改築をしました。

定員はこれまで通りの6名。入居される方の身体状況に合わせ、平屋建ての住宅となりました。2月17日に引っ越し作業を終えて、新しい住居で新生活を迎えています。なお、これまで使用していた旧ひだまりはスクエア家族会のご支援によって行えた事業です。改めて感謝申し上げます。



三方原スクエアの南東、温心寮に隣接した場所に移転しました

### 平成29年度 幹部職員人事異動

- ◇三室 龍一 つばき静岡 在宅支援課長
- ◇清川 智彦 オリーブの樹・わかな 統括主任
- ◇鈴木 崇之 アグネスみなみ 主任相談員
- ◇古橋 誠 (兼)オリーブの樹 施設長

### 静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団 「愛の都市訪問」寄贈の報告

平成28年度「愛の都市訪問」の福祉助成に応募したところ38団体応募の中、決定10団体に、支援センターわかぎが選ばれ、「福祉避難所開設のための防災用品」を寄贈いただきました。助成資機材は、①防災テント②簡易トイレ③段ボールパターションで、いずれも大規模災害時には必要な物品です。この場をお借りして、浄財を賜った県民に厚く御礼申し上げます。



### 浜松中区・南区の土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状です。土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

#### ・候補地

浜松市中区・南区

#### ・土地条件

500坪～1000坪程度  
宅地／農地／雑種地問わず  
隣接して6m道路  
電線・水道管近くにあれば◎

#### ・貸与条件

可能であれば無償  
貸与期間、固定資産税免除  
建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

#### ○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷  
053・584・3337



### 小羊学園を支える会

#### 2016年度 寄付金報告

2月 受付分	937,300円 (25件)
累計	6,646,262円 (416件)

#### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金	0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)  
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337

### 編集後記

年度替わりは何かと慌ただしく、つぶえの発行が遅れてしまったことをお詫びしたい。昨今報道を賑わしている国有地財産処分絡む問題に触れ、いつの間にか政局のカードになってしまっているのではないかと危惧する。問題の本質は何であつたかを問うことは大切だが、付いた尾ひれで政治が滞ることは避けていたいただきたいと願う。それでなくても、十分に審議すべき法案は山積みのはず…  
桜の開花予想が待ち遠しい季節です。どうぞ皆さまお身体ご自愛ください。

(F)